

北星学園大学

後援会だより

VOL.99

発行日 2009年12月1日
発行所 北星学園大学局
後援会事務局
札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号 〒004-8631
電話(011)891-2731
印刷(社) 北海道リハビリ



地区別父母懇談会報告

後援会の一大事業でもある地区別父母懇談会が、今年も道内七か所で開催され、十月三十一日の第二回札幌地区を以って、無事全日程を終了したことをご報告いたします。

今年度は、全会場で五〇〇組の申し込みをいただき、前年度より約一〇〇名程多いご参加をいただきました。全体会では大学の近況報告、修学関係についての説明があり、最後にご父母の皆様が強く関心をお持ちの就職状況について報告がありました。また、地方会場では個別懇談までの待ち時間に、ご父母同士でご相談されたり、修学相談の合間に就職支援課による個別相談にご参加いただくなど、貴重なお時間を過ごされたようです。参加されたご父母の皆様方からは、成績・就職関係の情報はもちろんのこと、特に離れて暮らしておられるので、「学生の学校生活についても知る機会となり、大変参考になった」とのお話を伺いました。

父母懇談会では毎回アンケートの記入をお願いしておりますが、今年も多くの感想や感謝のお言葉をいただきました。その一部をここに紹介いたします。貴重なご意見として、今後の改善に努めて参りたいと思っております。今後とも、より多くのご父母の皆様にご参



地方会場全体の様子



個別懇談会場の様子(地方)

加いただき、さらにご満足していただけるような父母懇談会を目指していきたいと思っております。

来年度の日程は、決まり次第「後援会だより」でお知らせいたします。今年参加できなかった皆様もぜひ足を運びくださいますようご案内申し上げます。

・今回初めて参加させていただきましたが、出席状況や成績について把握できていなかったため、大変参考になりました。就職についても親としての心配を話していただき、有益な懇談会でした。

(六月札幌)

・子どもからはなかなか聞き出せないことや、質問にもすぐ答えていただきとても感謝しています。少しずつでも履修について理解していき、子どもとじっくり話す機会を持ちたいと思います。

(八月函館)

・全く見えていなかった学校の様子を、説明を聞くことで少しずつ理解できました。子どもと一緒に将来を考えることに生かしていきたいと思っております。

(八月苫小牧)

・個人面談の時間を多くとって頂いたのがとても良かったです。同級生のお母様との情報交換の場が持てたのも良かったと思えます。

(九月北見)

・就職担当の方とお話させていただきましたが、心配だったことについて色々アドバイスしていただき、とても励まされました。今後の対策として参考にさせていただきます。

(九月旭川)

・初めて参加する場合は、事前に成績票などの個人資料の見方を、分かりやすく解説した書面を郵送していただくと助かります。

(九月帯広)

・四年生なので、卒業に向けての履修単位について大変参考になりました。また、就職について毎回ご相談にのっていただいたおかげで、内定も決まりました。先生方には本当に感謝しております。ありがとうございます。

(九月釧路)



全体会場の様子(10月札幌)

星学祭を終えて

第四十八回大学祭実行委員会

実行委員長 阿部 満梨絵

今年度の星学祭も、関係者の方々の厚いご支援とご協力により無事終了することができました。開催中は天候に恵まれず、雨が降っては止み、降っては止みという安定しない曇り空の下で行われましたが、多くの方々を足をお運びいただき、主催者側と致しましては大変嬉しく思います。また、今年度も若い方からご年配の方まで全ての世代に楽しんで頂けるような企画を盛り込み、準備を進めて参りました。その結果、幅広い世代の方々にご来場頂けたことを心より嬉しく思います。

今年度のスローガンである「一期一笑」に沿って、星学祭をより多くの方に楽しんで頂くために、イベントや模擬店の企画に一層力を入れて参りました。その甲斐もありまして、毎年恒例のイベントや模擬店は勿論、今年度から新たに取入れたイ

ベントなどへ、多くの方が参加して下さいました。また、学生からの積極的な協力にも大変感謝しております。

今年度の星学祭は、地域の方々や、催しに参加して頂いた各団体、そして学生支援課の皆様のご多大なご協力によって大盛況のうちに幕を閉じることができました。これに満足することなく、より一層の発展を目指し、今後の星学祭におきましても精進していきたいと思っております。そして、第四十八回北星学園大学・北星学園大学短期大学部星学祭を開催するにあたり、ご支援・ご協力頂いた皆様、お忙しい中、星学祭にお越し頂いた皆様、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、後援会の皆様にも「北星学園大学のサポーター」として、ご支援を頂いたことを、心より御礼申し上げます。そして、今後も皆様にとってよりよい思い出となるような星学祭にするために、私たち大学祭実行委員一同努力して参りますので、皆様のご理解とご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

卒業記念祝賀会のご案内

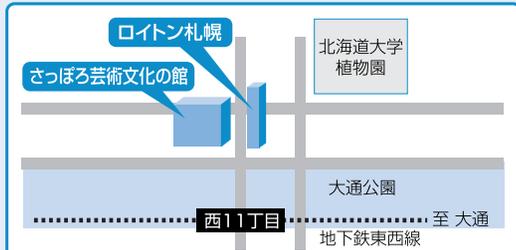
2009年度卒業式・卒業記念祝賀会が下記のとおり挙行されますので、ご案内いたします。ご父母の方も是非ご出席ください。

卒業式

日時: 2010年3月15日(月)
全学部 13:00予定
場所: さっぽろ芸術文化の館(旧北海道厚生年金会館)
(札幌市中央区北1条西12丁目)

卒業記念祝賀会

日時: 2010年3月15日(月)
全学部 16:30予定
場所: ホテルロイトン札幌
(札幌市中央区北1条西11丁目)





内定先：株式会社 北洋銀行

経済学部 経済学科
田中 利樹

百年に一度の就職氷河期。私の就職活動時期は、運悪くもそう呼ばれる時でした。

初めての就職活動で、右も左も分からない自分は、正直なところ氷河期という実感はありませんでした。

しかし、企業説明会やニュースなど、多くの方々が「就職氷河期」という言葉を煽っていて、自分の中に焦りというものが生まれてきました。「自分もすぐに就職活動をしなれば」と、そう思って周りを見渡すと、すでに始めている人たちも、ち



内定先：全日本空輸株式会社 客室乗務員

文学部 英文学科
高田 美奈

私の就職活動は大学受験から始まりました。幼い頃からの夢であった客室乗務員になるために「英語の北星」「航空業界に強い北星」と言われている北星の英文学科を受験したのです。ですから、私にとって大学生活ほとんどがCAになるための準備期間といっても過言ではない程、努力しました。

まずは英語ですが、TOEICを定期的に受け、納得のいく得点を取りました。また第二外国語では、全日

らほらいて、余計に焦りを感じました。焦ってまず頼りにしたのは、就職支援課でした。焦って聞きにいったのですが、就職支援課の方に、「みんな同じ状況なのだから、焦っても仕方ない。マイペースでやりなさい。」と一言ももらってから、少し気持ちも楽になりました。

自分のペースで職を探し、時間を見つけて息抜きをしました。常に気を張っているよりもずっと楽でした。心に余裕を持って就職活動をすれば、辛いことはかなりではないということも実感できます。一次試験の合格通知を見たときや、友達と就職活動のことを話したり、面接官との意外な楽しい会話など、就職活動でしか楽しめないようなこともいっぱいあります。就職活

空が中国路線に力を入れる予定であることを視野に入れ、中国語を選択しました。そして自分が本当に接客業に向いているか確かめるために、JRの寝台列車、北星での客室乗務員のアルバイトも一年次から始めました。このアルバイトは札幌と上野を往復するために一度の乗務は二泊三日なので、ハードな大学生活でしたが、これが自信にもつながり、内定を頂けたのでした。

とにかく「後悔したくない!!」その一心で自分ができるところをとことんしてきました。これは就職活動において大変重要なことだと思います。今やらなければいつやるのか?という気持ちを常に持って、「できるできない、ではなくて、する

動を苦痛と感じるか、楽しいと感じるかは、その自身の考え方ひとつです!

皆さんには、楽しく充実感のある就職活動をしてほしいと思います。苦しい時こそ、それを乗り越えた瞬間の嬉しさ、達成感は大きいです。ぜひ就職活動を通して、喜びと達成感を味わってください。皆さんの就職活動を心より応援しています。



内定先：株式会社JALホテル札幌

短期大学部 英文学科
榎田 育枝

私が就職活動を始めたのは、今年の二月に札幌ドームで行われた合同企業説明会からでした。一人で、しかも初めて企業の方々と接する場面だったので、緊張

もしましたが、いろいろな企業の事を知ることができたので、とてもわくわくしていた事を覚えています。しかし私には、絶対にこの仕事に就きたい!というものが無かったので、とにかく沢山の企業の説明を聞いて、興味を沸かした企業にはその企業の単独説明会にも行ってみたい、というスタイルで就職活動を進めていきました。

就職活動報告

全国的に厳しい就職状況が続く中、見事内定を手にした先輩方の体験談をご紹介します。これから就職活動を迎える方にとって貴重なアドバイスとなりしますので、是非参考してみてください。

「かしくないか」という姿勢で一杯取り組んでほしいと思います。と、熱いことを言っていました。三年生の秋から就職活動を始めました。社会学部に入学したので、福

「頑張ってください。」



内定先：浦河町教育委員会 社会教育事業 地方公務員 専門職

社会学部 福祉計画学科
橋本 恭宏

に就職支援課に行き、号泣したこともありました。しかし、職員の方が「あなたはあなたのままでいいから、そのままのあなたを受け入れてくれる企業で働きなさい!」と言ってくれたので、気を取り直して、また頑張ろうと思えました。その結果、素の私を認めてくれて、さらに第一志望である旅行関係の会社に内定を頂くことが出来ました。

就職活動のコツは笑顔を忘れないことと、自分の言葉でいいから、しっかりと思いを伝えることだと思えます。上手くいかずに落ち込む日もあるかもしれませんが、次に生かせるチャンスだと思つて頑張ってください。

「熱意」だと思えます。絶対にこの企業で働きたい!ここで活躍したい!という熱意を持ち続けていけば、必ず夢は叶うと思えます。自分を信じて、就職活動を乗り越えてください。応援しています。

2009年度 東アジア学生交流プログラム(EASCOM) 報告



寿司作り体験での1コマ

今年も後援会から多大なる援助を頂き、東アジア学生交流プログラム(EASCOM)を、十月十四日から二十八日の日程で実施しました。このプログラムは本学のアジアにある協定校(中国・大連外国語学院、韓国・カトリック大学校、台湾・東海大学)から五名ずつ、計十五名の学生を招聘するというプログラムです。

「北星サミット」と銘打った討論会でも同世代の若者同士が本音をぶつけあいました。一方、文化交流という面では、各国・地域の伝統芸能や特色ある文化を紹介する「アジア舞台」や各地域独自の料理等を作って振舞う「アジア舞台」は毎年恒例になっており、学生や教職員から好評を博しています。

また、ヨサコイ体験、小樽への一泊旅行、市内観光を通じ北海道を満喫し、浴衣や茶道も体験しました。さらにホームステイや、小学校訪問で地域の方々とも触れ合う機会があり、幅広い年代との交流を楽しむことができました。

このプログラムの良い所は、単なる物見遊山のツアーではなく、時には軋轢を生じることもある国・地域間の若者達が、宿舎となった学生交流会館kiriariで共同生活を送り、言葉や文化、国境の壁を超え、共に泣いたり笑ったりするうちに固い友情を育むことができるという点にあります。



アジア舞台での様子

今年も次代を担う若者達にこのような貴重な経験をさせる機会を与えてくださり、深く感謝申し上げます。報告とさせていただきます。

学生支援課 前村 俊一郎

国内・国外研修報告

「楽園」と呼ばれた アムステルダムでの研修

経済学科 専任講師
高橋 義文

2008年9月から2009年8月31日まで国外研修の機会を与えて頂き、小さなトラブルは数多くあったものの無事帰国することができました。

英語の下手な自分を受け入れてくれたのは、Vrije University Amsterdam (オランダ・アムステルダム市)の空間経済学部のPeter Nijkamp教授でした。ピーターは世界的に有名な研究者で、世界の経済学者ランキング (<http://ideas.repec.org/top/top.person.all.html>) で常にTOP 30入りしている方です。当然、私などは相手にされるわけは無いだろうという自虐的な思いもあり、オランダビールでも嗜みつつ、ゆとり研究でもしようかと考えておりました。

しかし、実際オランダに到着するや否や、研究計画の提出を求められ、自分は何ができるのか?どこまでできるのか?と言ったディスカッションをした上で、2週間も経たないうちに本格的な研究ミーティングが週1の割合で開催されるようになりました。ミーティング前日は資料作りで徹夜を余儀なくされ、かつ英語の特訓のためにと大学院講義の受講も義務付けられました。かのマイケル・ジャクソンに「楽園」と言わしめた街アムステルダムを堪能するどころか、最初の3ヶ月は日曜以外ずっと研究室に閉じこもったままでした。

幸い、英語の上達とともに要領よく研究ミーティングをこなすことができるようになり、半年間はオランダ文化も十分に堪能することができました。オランダは自由な国(カジノ、同性愛結婚、大麻、風俗、安楽死... e. t. c. がOK)であり、その自由さが「楽園」と称される理由なのだ実感しました(自由な代わりに自己責任の国とも言えます)。幸か不幸か、私はいずれにも興味がなかったもので、それら自由を満喫することはありませんでしたが、満喫している方々の話を拝聴したり、見学する機会はあったので非常に有益な体験ができたのではないかと思います。

オランダでの在外研修は、私にビール太りと尿酸値の増加という負の影響をもたらした反面、何事にも変えがたい大切な多

くの物も(論文2本という研究成果、研究者の人脈、ディープなオランダの文化)与えてくれました。今後は、この経験を活かした研究・教育活動を行いたいと思っています。

「国内研修を終えて」

経済学科 准教授
野本 啓介

私は2008年9月から2009年8月までの一年間、国内研修の機会を与えていただき、政策研究大学院大学(GRIPS)の客員研究員として東京に滞在して研究生活を送りました。

政策研究大学院大学(GRIPS)は、一般には余り知られていないと思いますが、その名の通り大学院のみの大学で学部はありません。学生はおおよそ300人、外国人が約200人と日本人が約100人です。外国人学生は、主に日本政府の政府開発援助(ODA)で招いた開発途上国の中央・地方府庁の行政・技術官僚で、すべての授業・ゼミが英語で行われています。一方、日本人学生は主に都道府県庁や主要市役所からの出向(国内留学)で、日本語でゼミ・授業が行われています。

私の専門分野は、政治学と国際関係論をベースにして、国際開発協力、日本の外交・開発援助(ODA)政策、開発途上国における開発行政・ガバナンスのあり方を考察するものです。

GRIPSは、日本をはじめとした先進国、開発途上国、国際機関の政府や研究者との幅広いネットワークを有しており、研究面で大きなプラスとなりました。また、東京では、GRIPS以外にも政府機関、国際機関、研究機関、NGOなどによるさまざまなセミナーや研究会が行われており、これらに参加することによって、多くの知的刺激を受けるとともに、研究者や実務者との交流を深め、ネットワークをより広げることもできました。札幌はとてもいいところですが、こうした機会の多さという点では残念ながら東京にはかないません。

一年の間、ゼミや授業から離れてじっくり研究し考える時間を得たことは本当に貴重な経験でした。今後は、この成果を研究と教育に生かしていきたいと思っています。こうした機会を与えていただいたことに、あらためて感謝いたします。

学会報告

日本オーラル・ヒストリー学会 第7回大会を終えて

短期大学部教授 吉田 かよ子

2009年9月12日(土)、13日(日)の両日、日本オーラル・ヒストリー学会(略称JOHA)第7回大会が北星学園大学を会場に開催されました。JOHAは2003年に日本におけるオーラル・ヒストリーの研究振興を目的に設立された歴史の浅い学会ですが、現在では会員数も300名に近づき、順調に学術団体としての歩みを進めています。私はJOHA初代会長を務め、創設期の学会運営の苦勞をしましたが、その頃よりいつかは北海道で年次大会を開催したいと考えていました。今年度ようやく念願が叶い、北星学園大学での大会が実現しました。

JOHAの大会では会員の研究発表の他に毎年シンポジウムを開催し、オーラル・ヒストリーの諸相を参加者全員で考えるという企画が存在します。北海道での開催ということでシンポジウムのテーマを「アイヌのオーラル・トラディション」とすることが決まり、一人でも多くのアイヌ民族の方々にパネリストとしてご参加いただきたいということになりました。しかし、設立から日の浅い学会では大会予算も限られており、シンポジウム開催にむけて北星学園大学後援会の学会費用補助を申請したところ、幸いにもご援助をいただけることになりました。

その結果、パネリストとして秋辺日出男さん、大須賀るえ子さん、川上将史さん、計良智子さん、それにシンポジウム後のパフォーマンス「アイヌの歌と語り」出演ということで、遠山サキさん、堀悦子さん、母娘と、計6名をお招きすることができました。世代もこれまでの経験も異なる皆さんからの真摯で率直な語りや、アイヌの口承文芸を鑑賞する豊かな時間を参加者全体で共有できるシンポジウム&パフォーマンスとなりました。学会会員だけでなく、一般の

市民の方々、北星学園大学の教員・学生、韓国、中国、アメリカからの交換留学生など80名近い人々が参加しての国際色豊かな催しでもありました。

学内で行われた懇親会では開催校を代表しての文学部阿部敏夫教授の挨拶に引き続き、遠山サキさん、堀悦子さんのムックリ演奏や歌に合わせて輪踊りを楽しむなど、さらなる交流の時間が続きました。先住民としてのアイヌ民族を取り巻く政治的、経済的課題がメディアで取り上げられる中、個人の「語り」を通しての民族の記憶の歴史の一端を共有するというユニークな経験の場となりました。この催しを可能にいただいた大学後援会のご支援に深く感謝いたします。

学費の納入について

授業料等学費につきましては、毎年、第1期(前期)と第2期(後期)の2期に分け納入していただいておりますが、これまでは第1期(前期)に「教育充実費」年額と後援会費等の諸会費が含まれておりました。

2010年度より、第1期にかかる負担を軽減するため、「教育充実費」についても2期に分けて納入いただくよう変更いたしました。(例を参照してください。)

なお、各学年の納入金額については大学公式ホームページ(<http://www.hokusei.ac.jp/>)→「保護者の方へ」→【学生生活】→「学費・諸納付金」をご参照ください。

例：大学2年次

納期	現行		変更後	
	第1期	第2期	第1期	第2期
費目	4月30日	10月31日	4月30日	10月31日
授業料	420,000	420,000	420,000	420,000
教育充実費	130,000	-	65,000	65,000
諸会費合計	30,000	-	30,000	-
合計	580,000	420,000	515,000	485,000

各種減免制度等についても、大学公式ホームページ→「保護者の方へ」→【学生生活】→「学費に関するQ&A」に掲載しております。



